

師に黙祷！ 松陰先生命日に都内の縁の地めぐり。



安政の大獄で
処刑された朝10時
十思公園にて
日本橋小伝馬町

毎年10月27日の命日は、この場所に集まる



↑ 命日のこの日この場所で、全員で松陰先生の本を朗読し、思いを馳せる時間



↑ 松陰先生終焉の地碑。ここは経済人、政治家などが独り静かに来られる場所でもある

小塚原回向院(最初に葬られた地)



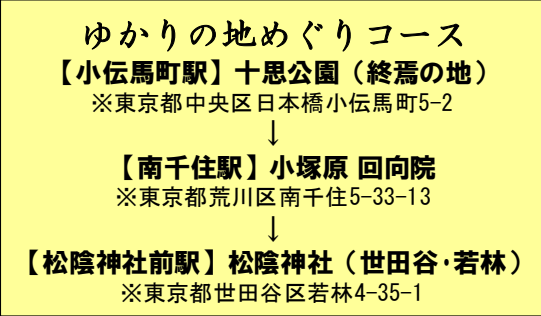
↑ 安政の大獄で犠牲となった、梅田雲浜や橋本左内、頼三樹三郎らの墓もここにある。また、大老・井伊直弼暗殺を成し遂げた浪士たちもここに。

↑ 墓石には「二十一回猛士」と刻まれている。吉田の名を分解し、21回の挑戦を誓ったもの。

151年経っても、この日は、ここで何かを感じたい！ 武蔵の野辺に消えた松陰先生の魂に一番近い場所で。

幕府に自ら「至誠」を試そうと、評定所で真実を語った吉田松陰先生に出た判決は、無念にも処刑だった。安政6年(1859)、10月27日、朝10時の鐘の音の合図で、江戸伝馬町獄で露と消えた。今から151年前のことである。

当大学の目指すべき学び舎が松下村塾。その主宰者の松陰先生は、我々の師でもある。命日は、1日かけて松陰先生のゆかりの地をめぐった。十思公園に集合し、敷地内にある終焉の地前で、朝10時に黙祷を。その後、南千住駅すぐ前にある小塚原回向院へ移動した。亡くなられた直後、亡骸はここに葬られた。安政の大獄の犠牲者は、ほとんどがここ運ばれるのだが、罪人ではないと憤った弟子の高杉晋作や伊藤博文、山尾庸三ら6人によって、世田谷若林の地に遺骨を改葬する。現在は松陰神社となっている。最後に全員で参拝し、墓前で手を合わせた。



松陰神社に全員で参拝

若林・松陰神社(改葬の地)

→松陰先生の亡骸は、高杉晋作、伊藤博文らの手により、小塚原回向院より、この世田谷若林に改葬された。長州毛利藩藩主毛利大膳大夫の別邸があった地である。



同じ目線で記念撮影



松陰先生のお墓

<学生の感想>

- 現場で感じたのは、松陰先生が想いを残した辞世の句。日本の行く末を本当に心配されていたのだと思う。10時の黙祷中は、今の日本は松陰先生の描いた日本像に近いのか、考えさせられた。
- 松陰先生の残した『留魂録』は、門下生の心を震わせた。卒役人の心までも震わせた。私もこの“真心”を以てすれば、想いは必ず通ずるものだ、と信じて行動していく！